



Food Security Club

尾崎 礼菜



From カナダ エドモントン

今年 2 月からカナダ アルバータ州エドモントンの公立高校に留学している。5 か月間の留学での一番の成長は、自分に自信ができたことだ。移民が多いカナダは、文化、言語、価値観も違う。周囲には日本人も、友達も、家族もない中、英語も流暢ではない自分が、すべて一人で考えて行動しなければならない。世界各国から集まった多国籍な友達と文化の違いを楽しみながらの生活と言えば聞こえはいいが、現地のカナダ人と友達になる機会はとても少ない。そのことを先生に相談してみると、外国人留学生が在籍していない「**Food Security Club**」を紹介してくれた。今回は、そこでの活動について話したいと思う。



Food Security Club

私が通っている学校には、金銭的に裕福でない人も多く、すべての人が朝、昼、晩の三食を満足にとれているとは限らない。この問題を解決するのが家庭の収入に関係なく、誰でも公平に食事をとることができることを目的とした **food security** (食の保障) 活動だ。朝の 1 限のクラスが始まる前の朝食のほか、休み時間と昼休みには、お菓子やヨーグルト、チーズ、りんご、みかん、カップラーメンなどが無料で提供される。

どんな人でも自由に、気兼ねなくサービスが受けられるよう、食料品の受け取りは手渡しではなく、あえてさまざまな場所に設置してあるコーナーで行われる。

食料を買うための費用捻出方法もユニークだ。週 2 回、生徒会を通じて全校生徒参加の行事を行い、資金を集める。例えば、最近では、学校 T シャツの色を染めたり、水鉄砲を用いた全力水遊び、先生対生徒のホッケーゲームを開催したりして参加費を、**Food Security** に充てている。

私は、この活動がとても気に入っていて、いつか日本でもできればいいな、と思っている。

KOCHI IYEO 30th Anniversary

Newsletter vol.5



カナダ アルバータ州エドモントンの街並



自分の軸をしっかりと もとう

藤丸 知世

From ガーナ



ガーナ大学

私は高知大学の交換留学生として 24 年 3 月からアフリカのガーナ大学に留学している。異文化環境での戸惑いやトラブルは日常茶飯事だが、私が一番学んだことは、「自分の軸をしっかりと持つことと、それを守るために自分を表現すること」だ。日本と環境が変わった今だからこそ自分の軸を見失いやすい。軸があっても人に流されたら意味がない。金曜の夜になると大学の留学生や寮の友達がパーティーによく誘ってくれる。が、これが私にとってはとても悩ましい。土曜の朝は、9 時から 13 時まで日本語ボランティアとしての授業があり、金曜の夜は授業の準備のための貴重な時間だからだ。



Ada のローカルコミュニティの子達と金曜夜の誘いはお断りとは言いつつも心の中では、「いろんな国からの留学生との出会いが待っているせっかくの機会だから参加する方がいいのではないか」と思ったり、「留学では、なるべく多くの人と交流した方がいい

だよ」という友人のアドバイスが浮かんできたり、自分の選択には自信が持てなかった。さらにはコミュニティから離されているような感じもして、一種の孤独感を感じていた。ある日、一人の友達と明確な目標、つまり軸を持つことの大切さについて話す機会があり、「揺るがない目標は、貴重な時間を有意義なものにする。ただ、自分の軸を守るためには、時に自分のしたいこと、嫌なことははっきりと伝えないといけない」という思いを共有することができた。自分の軸についてもう一度考え、再確認できた出会いだった。ここガーナでの生活は自分の人生の通過点でゴールではない。“自分は留学後も続く人生を見据えてやりたいこと、やるべきことをやり通すべきだ”と考えもクリアになった。たとえ周りとは違う選択をして孤独感を感じたとしても、今は自分の選択に自信が持てるようになったと実感している。

KOCHI IYEO HP



2024 年 7 月 6 日発行

発行者

高知県青年国際交流機構

(KOCHI IYEO)

会長 前田正也

☎ 090-9552-0022

✉ xiwang@yacht.ocn.ne.jp